

「ゴ」は人とお米に対する僕の愛

二年 町田 泰太

僕は身長一五一センチ、体重六十キログラムの伊  
っちやり体系です。目大目か口わかるゴに  
食べるゴとが大好きです。

僕の家族は料理上手です。もともと食べる  
ゴとは好きでした。おいしい料理を食べ  
育ったので、食べるにゴ飯を食べるゴとが  
好きになりました。

父の作るローストビーフ、母のポーク  
チキン、祖母の肉じゃがが僕は好きです。

おかずだけでもおいしいですが、このお  
かずをゴ飯と一緒に食べるとさらにおい  
しが、何倍にも増えます。

僕は平野地の田舎者が多くある町で育ちま  
した。そのため課外授業でお米作りがあり、  
もち米と普通のお米を育てました。種もみを  
植えて苗作りから始め、土づくり、肥料やり  
田植、刈穫、脱穀などを昔ながらの方法で  
すべて手作業で行いました。

種もみは先輩が前年度作ったお米から作りま  
 した。少しずつ成長し苗になる様子を観察し  
 ちくちくしました。僕は二の課外授業で初め  
 て田植えを行いました。目印のついた紐を田  
 んぼの端から端に渡しその目印に沿って稲を  
 植えました。田んぼによることも初めてだっ  
 た僕は田んぼを移動することにも苦戦し時に  
 は転んでしまった。足が埋まってしまった  
 ほどなかなることもありました。しかし田植え  
 の終った田んぼを見ると稲がきれいに並ん

で、茶色の田んぼに緑の稲が映えてより達成  
 感と感動を感じました。

稲の様子が一瞬に家族と出かけるよきに  
 田んぼの近くを通って帰りました。友達と一  
 緒の様子を見に行ったりしました。卒の時に  
 初めて稲の花を見ました。少しずつ成長して  
 いく稲にあくちくか止まらせませんでした。  
 それで待ちに待った収穫の時期になりました  
 左の収穫は鎌でおこなっていました。小さかつた  
 苗が太く大きく成長しており刈るのも一苦労

しました。

収穫したもち米でお餅を作り地域の人はお

すそ分けしました。ありがとうございます。

し、そう「という言葉」でもうホシクカリま

した。ま右普通のお米は家に持ち帰り、その

お米でおにぎりを作りました。シンポル丸塩

おにぎりにしました。自分が一分も手作業

で作ったといふこともあり、今まで食べたお

にぎりの中で一番おいしかったです。

稲一本から約六〇粒のお米がとれ、ごはん

茶碗一杯に約三二五〇粒のお米が必要で

お米を育てるまでにはそんなことまで言

いませんでした。が、米作りの大変さを知り

にたい調べたりしました。

お米は一粒一粒は小さいですが一粒一粒に

農家の人の苦勞が詰まっています。この課

外授業を通して学びました。またお米作り

大変なや感謝を感じました。

僕はお米が大好きです。ご飯を食

ぶことも大好きです。毎日おいしいご飯を

いっばい食べられる環境に感謝したいです。  
 この作文の課題を書くことはなりましたか  
 作文を書いたが、改めて食べられることの  
 感謝やごはんへの愛を感心しました。だから  
 もすべての食材へ感謝していきたいです。